

# Ⅲ 社内外の評価及びご意見

## 第13回 九州電力環境顧問会

2013年11月14日に「第13回九州電力環境顧問会」を開催し、当社の環境への取組みについて、様々なご意見をいただきました。環境顧問会での主なご意見とその対応方針についてご紹介します。

### 九州電力環境顧問会委員 (50音順、敬称略)



あさの なおひと  
浅野 直人  
福岡大学法学部教授、  
中央環境審議会委員



おつか まさお  
大塚 政雄  
環境省環境カウンセラー  
(市民部門)



かど ひさよし  
門 久義  
鹿児島大学大学院  
理工学研究科教授



つつい やすひこ  
筒井 泰彦  
エッセイスト



つる た さとし  
鶴田 暁  
九州地域環境・  
リサイクル産業交流プラザ会長



なが た こ  
詠田 トキ子  
NPO法人  
みやざきエコの会理事長



にしだ しんいち  
西田 進一  
西田鉄工株式会社  
相談役



のむら みさお  
野村 美紀生  
株式会社 TNC 放送会館  
代表取締役社長



はやせ たかし  
早瀬 隆司  
長崎大学大学院 水産・環境  
科学総合研究科 研究科長



会議風景

(注)ご所属は2013年11月時点で記載しています。

用語集を  
ご覧ください

- 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ
- 地球温暖化
- 京都議定書
- 温室効果ガス
- IPP事業
- 再生可能エネルギー

### [ご意見の概要と対応方針]

ご意見の概要	対応方針
<p><b>【地球温暖化防止への取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●原子力発電については、経営上の優位性という観点だけではなく、CO<sub>2</sub>排出削減に寄与していることをもっと主張するべきではないか。</li> <li>●CO<sub>2</sub>の「累積排出量」が地球温暖化に影響を及ぼすことは、国際的にも認められている。今後は、将来の排出削減量だけではなく、累積排出量についても説明するべきではないか。</li> <li>●京都議定書の第一約束期間が終了したことにより、今後は実質的なCO<sub>2</sub>排出量の削減に注力することが重要。海外での事業や技術支援を通じたCO<sub>2</sub>排出量を自社の取組みとしてアピールする動きが広がっており、九州電力でも検討してはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2014年4月に閣議決定された「エネルギー基本計画」において、原子力発電は運転時に温室効果ガスの排出がないことなどから、重要なベースロード電源と位置付けられています。本レポートでは、原子力発電が、発電所の建設や燃料の採掘、輸送、廃棄物の処理などに伴って発生するCO<sub>2</sub>を含めても、その排出量が少ない発電方式であることを引き続きグラフで紹介(P.11)するとともに、CO<sub>2</sub>排出抑制に向けた当社の取組みの一つとして、今後も安全の確保を前提に原子力発電を活用していくことを記載しています(P.11)。また、地球温暖化防止への取組みを推進するにあたっては、将来のCO<sub>2</sub>排出削減量だけではなく、CO<sub>2</sub>の「累積排出量」が地球温暖化にどのような影響を及ぼしていくかを意識するとともに、広く一般の方々にもご理解いただけるよう、今後、説明に努めてまいります。</li> <li>●海外での事業や技術支援を通じ、CO<sub>2</sub>排出抑制に取り組んでいることを、本レポートでも引き続き紹介しています(P.19)。CO<sub>2</sub>削減量の当社貢献としてのアピールについては、今後検討してまいります。</li> </ul>
<p><b>【再生可能エネルギーに関する説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●風力・太陽光などの再生可能エネルギーの導入は今後も拡大していくと考えられるが、設備導入にあたっての課題については、一般的な課題のみではなく、具体的な事例を紹介する方がよいのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本レポートでは、引き続き、風力・太陽光設備の導入にあたっての課題とともに、太陽光発電の出力変動のグラフを掲載しています(P.14)。また、併せて当社ホームページ(<a href="http://www.kyuden.co.jp/">http://www.kyuden.co.jp/</a>)においても、発電状況のリアルタイムデータを公開することにより、風力・太陽光発電の出力が日照時間などの自然状況に大きく影響を受けることをご理解いただけるよう努めています。なお、具体的な事例を紹介することについては、公平性の観点に十分留意しつつ、今後、検討してまいります。</li> </ul>

ご意見の概要	対応方針
<p><b>【生物多様性への取組み】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物多様性を社会へ定着させるには、企業活動が大きな役割を果たすと考えられる。あらゆる活動が生物多様性に繋がるとの認識を持つことが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生物多様性国家戦略2012-2020」の戦略目標にある、多様な主体が、生物多様性の保全と持続可能な利用の重要性を認識し、それぞれの行動に自発的に反映する「生物多様性の社会における主流化」の達成に向け、生物多様性の保全と持続可能な利用への取組みを継続していくとともに、環境活動を含む事業活動の多くが、生物多様性への取組みに関係・寄与していることについて、社員の理解を深めていくこととしています(P.38)。</li> </ul>
<p><b>【当社の活動のPRについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>九州電力の技術研究には、地域貢献に繋がるものがあると思うので、様々な場において発表すれば社会貢献や地域との連携を紹介できるのではないかと。</li> <li>各種活動のPRにあたっては、信頼関係が構築されていない方々に理解してもらえらる方法を考えることが大事。九州電力のそうした「姿勢」が、多くの方々の理解に繋がると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献に繋がる技術研究等については、機会を捉えて積極的に発表していくとともに、一般の方々に広く知っていただけるよう、環境アクションレポート等を通じた情報発信に努めます。</li> <li>消費者団体や経済団体など、様々な立場の方々に当社経営層と対話いただく「お客さまとの対話の会」などの取組みにより、今後もあらゆる立場の方々に当社への理解をいただけるよう努めます。また、社員一人ひとりが、日常の事業活動や当社ホームページを通じて寄せられるお客さまの声を把握し、「お客さま目線」での活動に取り組んでいきます。</li> </ul>
<p><b>【放射線（原子力）に関する理解活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放射線については、二極対立での議論に囚われることなく、中立的な立場の方々に対して、公平性のある情報を提供し、理解を得ることが重要である。</li> <li>放射線は身近なものであるにも関わらず、一般の人々には馴染みがないように思う。日常生活において、自然に情報を取り込めるような仕組みが必要である。</li> <li>一般の人々は、詳細な報告書等を読む機会があまりないため、原子力のことを容易に理解できる平易な内容の資料があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放射線と放射能に関する基礎知識や、身の回りにある放射線とその影響などのデータを集めたパンフレット「わたしたちの環境とくらしのために知っておきたい放射線・放射能」を2013年4月に作成しています。引き続き、このようなツールを活用しつつ、お客さまとの対話や交流の機会を通じて理解促進を図っていきます。</li> <li>原子力発電に関する資料については、平易な表現や分かりやすい図などを用いるなど、今後とも一般の方々に気軽に読んでいただける内容となるように努めます。また、当社の原子力発電所の安全確保に向けた取組み等については、当社ホームページ(<a href="http://www.kyuden.co.jp/">http://www.kyuden.co.jp/</a>)において詳しく紹介しています。</li> </ul>
<p><b>【地域・社会共生活動のあり方】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動は、参加者が少なく固定的という課題があるが、市民と同じ目線で活動を広げるといいう方向性のもと、平和や福祉など他のテーマで活動している団体と連携をとれば裾野が広がるのではないかと。</li> <li>社会活動を他団体と連携しながら実施するのであれば、環境会計における社会活動の整理についても、範囲を拡大して考えられるのではないかと。</li> <li>厳しい経営状況をより効果的な地域・社会貢献活動を見つける機会として捉え、地域から必要とされる活動を地域の人々と共に実施していくことが大事である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体が主催する環境活動等に参加するなど、人的貢献を中心とした地域・社会共生活動を全社として推進しており、NPOとの協働についても積極的に検討しているところです。引き続き、環境以外のテーマで活動している団体との連携も視野に入れて活動を展開していくとともに、環境会計で整理している社会活動についても、現在の記載に拘らず、今後の活動内容を踏まえて柔軟に変更していくこととします。</li> </ul>
<p><b>【九州ふるさとの森づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>植林活動自体は良い取組みだが、実施にあたっては地域のニーズに沿っているかを吟味する必要があるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植林活動については、経営状況が厳しいことから、引き続き育林(下草刈)を中心に実施することとしています。植樹を行う際には、今後も各自自治体や地域の皆さまとも連携しながら、地域ニーズに沿った取組みとなるように努めていきます。</li> </ul>
<p><b>【環境アクションレポート】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動と環境負荷の状況について、CO<sub>2</sub>排出量が大幅に増加している事実が読み取れない。</li> <li>環境目標と実績は、詳細な情報が記載されているが、関心がない人には分かりにくいので、表現や見せ方に工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量の増加については、数値のみの記載では分かりづらいため、過去5年間の排出実績を経年比較できるグラフを掲載しています(P.11)。また、環境目標と実績については、達成状況をイラストにすることで、読者の方々が親しみを持って当社の取組状況を把握できるようにしました(P.10)。</li> </ul>

用語集を  
ご覧ください

- 生物多様性
- 放射線
- 放射能
- 環境会計